紡ぐ
くらしの
情報誌

バリバリ通信

2023 SUMMER
VOL.120

個性豊かな３台のDMV

運転席

線路走行用の鉄車輪を前後に装備

道路と線路の両方を走行 次世代の乗り物「DMV」

徳島県海部郡海陽町

徳島県の最南端に位置し、豊かな自然に囲まれた海陽町。太平洋を臨む海岸線を、世界でも類を見ない新しい乗り物「デュアル・モード・ビークル（DMV）」が走っている。

「デュアルモード」、つまり二つの形態を持つ車両で、一つは線路上を走る列車としてのモード、もう一つは、車道を走るバスとしてのモードだ。トヨタのマイクロバスを改造した車両の席数は十八席、「線路上も走れるバス」と言った方がわかりやすいかもしれない。デビューは二〇二一（令和三）年、本格営業運行は世界初といわれている。

現在運行中の車両は三台あり、青の「未来への波乗り」、緑の「すだちの風」、赤の「阿佐海岸維新」と、ネーミングにもこだわりが。それぞれ、サーフィン、特産品のすだち、坂本龍馬と太陽、をモチーフにしているそうだ。

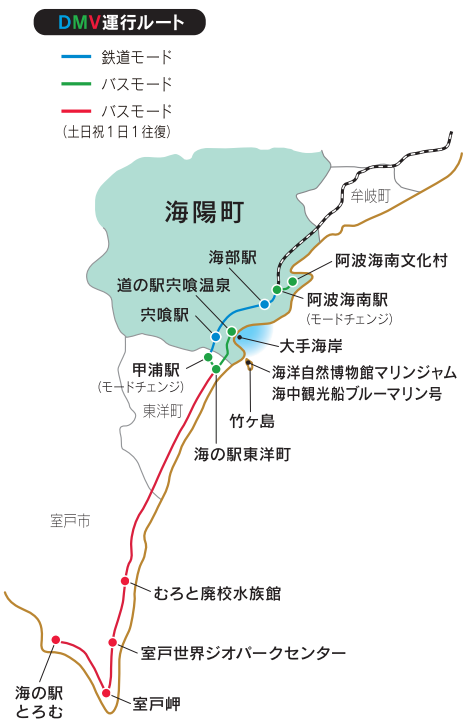
この三台が「阿波海南文化村」から阿波海南駅、海部駅、宍喰駅、甲浦駅、海の駅東洋町を経由して、「道の駅宍喰温泉」までのルートを運行している。土日祝日はこのルートに加え、高知県の室戸市まで一日一往復を運行する。

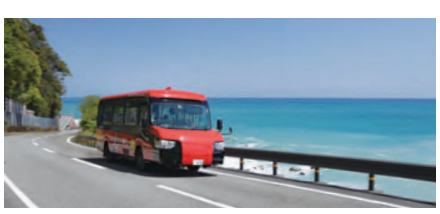
今回は、「阿波海南文化村」から乗車した。道路上ではバスモードとして前後のゴムタイヤで道路を走行しているため、一般的なバスと変わりない快適な乗り心地である。いよいよ次の「阿波海南駅」から列車モードに切り替わるのだが、モードチェンジは、整備された道路と線路を繋ぐ「モードインターチェンジ」と呼ばれる場所で行われる。

車体の下から鉄車輪が現れ、前のゴムタイヤを浮かせて、後ろのゴムタイヤが駆動輪となる。この間わずか、十五秒ほど。乗客は車外に出ることはできないが、車内のモニターがその様子を映し出してくれる。モードチェンジ中は、太鼓の軽快なリズムが響き「フィニッシュ！」のアナウンスが完了の合図だ。モードインターチェンジは、「阿波海南駅」と「甲浦駅」の二か所。撮影スポットとして、多くの鉄道ファンや観光客がカメラを片手に待ち構えていた。

DMVは通常の鉄道車両（ディーゼル車）に比べると燃料費や保守費用などのランニングコストを削減できるそうだ。また、列車とバスを乗り換えず利用できるため、公共交通がより使いやすくなったという。

現在のDMVにつながる車両の開発を最初に始めたのはJR北海道である。二〇〇二




バスモードで走行するDMV

海陽町までの交通【自動車で】

松山ICから	松山自動車道→徳島自動車道経由…約4時間10分
高松中央ICから	高松自動車道…約2時間30分
高知南国ICから	一般道…約2時間40分
徳島ICから	一般道…約2時間

四国ガス燃料
https://www.shikoku-gasnen.co.jp/

宍喰駅のホームに入る「未来への波乗り号」

運転士は中型自動車第二種免許と
動力操縦者免許の両方を取得している

珍百景的な存在になっている町内トンネル

（平成十四）年から開発に着手し、試験運行が繰り返されたが、同社が北海道新幹線に経営資源を集中する方針へ転換したことなどから、二〇一四（平成二十六）年にDMVの自社導入を断念した。

それと前後して、DMV導入を具体化させつつあったのが、阿佐海岸鉄道だった。鉄道とバスを乗り換えなしに利用できる交通体系の構築は、高齢化が進むこの地域に適応したものであること、珍しい乗り物であるDMVは、車両自体が観光資源の目玉となり、新たな人の流れをつくる観光の起爆剤になるとの狙いがあったという。

また、南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時にも、被災を免れた線路と道路をつなぎ、被災者支援をいち早く行うことができるとされ、未来の乗り物として大いに期待されている。

このDMVが走る海陽町は、高知県の県境に位置しており、徳島と高知をまたがって、さまざまな観光スポットを巡りながら鉄道とバス旅を楽しむことができるのも魅力のひとつだ。

旅の拠点のおすすめは、DMVの始発駅でもある「阿波海南文化村」。町の文化遺産を伝える総合文化施設で、美術刀剣として名高い海部刀などを展示する博物館のほか、藍染めや木工体験ができる工芸館、お土産を購入できる三幸館（さんこうかん）などがそろっている。

海陽町といえば、やはり海の景観とマリンアクティビティは外せない。海部川の河口付近や、道の駅宍喰温泉前に広がる大（おお）手（で）海岸は西日本でも有数のサーフスポットとして知られており、この日も多くのサーファーで賑わっていた。

サンゴが群生し、熱帯魚が泳ぐ竹ケ島（たけがしま）海域は、シュノーケリングやスキューバダイビングのスポットとしても人気が高い。竹ケ島にある「海洋自然博物館マリンジャム」では、シーカヤックやSUPなどのマリンスポーツも体験でき、海中観光船ブルーマリン号も運航している。

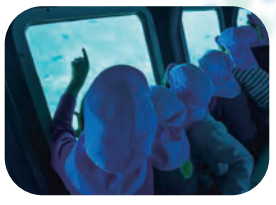
透明度の高い美しい海と、自然豊かな山に抱かれた海陽町で、この夏、大自然を満喫しながら自分流の楽しみを発見してみてほしい。日常の喧騒から離れて、美しい自然に触れ合う。心も体もリフレッシュできる贅沢な空間がここにある。

tokushima waku waku spot

DMV沿線はマリンアクティビティの宝庫

Marine activity

海中観光船ブルーマリン号



船内には大きな窓ガラスがあり、海中のサンゴ礁や鮮やかな熱帯魚たちの泳ぐ姿を間近で観察することができる。

サーフィン

初心者から上級者まで満足できる西日本有数のサーフスポット。

シーカヤック

サンゴが群生し熱帯魚が泳ぐ竹ケ島海域公園をシーカヤックでミニトリップ。

シュノーケリング

目の前に広がる青い海と自由に泳ぎ回る色とりどりの魚たち。ダイナミックな光景を楽しめる。

SUP

専用のボードに立ち、パドルで漕ぎ進む初心者にもやさしいアクティビティ。

海陽町のおみやげ

DMVモナカ

まさかの組み立て式モナカが誕生。パッケージがジオラマステージにモードチェンジして遊べちゃう。

海陽ラー油

海陽町でとれた伊勢エビを秘伝のレシピで味付。あまりのおいしさに白米のおかわりが止まらない。

阿波尾鶏たまごと和三盆糖のプリン

阿波尾鶏たまごをつかったなめらかな舌ざわりと和三盆糖の上品な甘みが魅力のプリン。

DMVカレー

DMVの鉄道とバスの2走行にちなみ、甘口と辛口の2つの味が楽しめるレトルトカレー。

寒茶（かんちゃ）

全国でもめずらしい冬の新茶。栄養をため込んだ冬の茶葉で淹れるお茶は、まさに濃厚の一言。